中間報告書

補助事業名	「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業		
事業期間	令和5年4月1日～令和6年2月29日	大学名	九州産業大学
実施概要	1.博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発講座（博物館などの社会資源を活用した、回想法、園芸療法、音楽療法などの「健康寿命」プログラムの体験、そして企画立案・実施運営の方法を学ぶ講座） 2.博物館リンクワーカー人材養成講座（博物館などが社会的処方の場となるための理論と実践を学ぶオンライン講座） 3.博物館のリラックス効果に関する実態調査（リンクワーカーがつないだプログラム参加者への生理測定、心理測定による効果評価を定量的・定性的に調査。対象は児童生徒から高齢者まで幅広い世代とする） 4.博物館健康ステーションの開設（地域住民を対象に、全国のリンクワーカーが企画立案する博物館浴プログラムを提供する、ミュージアムカフェを開催し、地域博物館における居場所づくりを進める。合わせて、居場所の効果を定量的・定性的に調査する） 5.海外博物館、美術館などにおける「健康寿命」増進プログラム及びリンクワーカーの実態調査（海外の先進事例を調査し、特に事例の定量的・定性的な評価方法を課題とし、今後の方策を検討する） 6.海外の博物館関係者、リンクワーカーを招聘したオンライン国際シンポジウムの実施（海外事例紹介、及び情報交流の場とする） 7.本事業を紹介する多言語映像資料の制作（海外博物館、美術館などに向け社会資源活用の成果を公開する） 8.3ヵ年の事業成果をまとめた報告資料の作成（「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業の総括報告を国内外に公開する） 9.実行委員会の開催（3部会を設ける。①調査研究部会②プログラム開発・評価検討部会③教材開発部会		
	※　詳細〈講座名，講師名，コマ数，公演名，会場名，公演回数等〉は下部の各活動欄に記入してください。		
共催者名・後援者名・協賛者名等とその役割	●共催者：九州国立博物館、福岡市博物館、九州大学総合研究博物館、佐賀県立博物館・美術館他（研修会場提供、プログラム研究開発協力等）●後援者：福岡県、福岡市、九州・沖縄各県博物館協議会、全日本博物館学会、日本展示学会、日本ミュージアム・マネージメント学会、全国大学博物館学講座協議会（研修会・シンポジウム等協力後援、加盟館、学会関係者への周知等）		

全活動合計	計画	実績	差	計画と実績の差異理由
来場者	289	189	−100	計画と実績の差異については、以下のようである。活動①の博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発講座は7月末から始まったが、今夏九州・沖縄地域が大型台風に見舞われたことで、参加予定の博物館関係者が災害支援対応などにより、急遽参加できなくなったことが大きな要因である。また、コロナ禍でオンライン研修会が一般的になったことから、出張予算が削減されたため、体験の研修会に参加できない博物館関係者も多くいたことが要因である。
育成対象者	229	176	−53	

育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業職員	その他
	人数	5	0	88	0	6	4	0

育成対象者具体的な職業	行政職員、医療・福祉従事者、博物館・図書館関係者、博物館学芸員・図書館司書有資格者（休眠学芸員・休眠司書）、博物館学・図書館学を学ぶ学生、博物館・図書館と健康に関心のある市民、在住外国人など	
アートマネジメント人材育成目標	申請時	達成状況
	本事業の目的は、博物館を社会的処方の場とし、「薬」だけに頼らない地域医療の構築を目指すことである。そのためには、「健康寿命」増進プログラム開発と医療・福祉従事者と地域住民、そして博物館をつなぐリンクワーカー人材育成が鍵となる。こうした人材の育成は、地域に社会的処方の場としての博物館を増やすと同時に、リンクワーカー自身の健康寿命増進に結びつくことも期待できる。さらにリンクワーカーの活動領域が博物館に留まらず、地域の学校や公民館、図書館、保健所等多様な社会資源に拡大することも期待できる。	全国には、5,700館以上の博物館が存在する。しかし、社会教育調査によると、国民の1年間の利用回数は、コロナ禍前で1.2回、コロナ禍で0.5回（文部科学省調べ）となっている。これまでの博物館は「知的刺激、学び、楽しみ」の場と言われてきた。しかし、利用回数から見ると、新たな価値の創造が必要だと言える。本事業は、新たな価値として、博物館を社会的処方の場とし、「薬」だけに頼らない地域医療の構築を目指すことを目標とした。そのためには、博物館と地域をつなぐアートマネージメント人材（＝リンクワーカー人材）の育成が必要であり、採択後に9つの活動を立ち上げ、7月末以降活動①を6回、活動③と④をそれぞれ3回、その他の活動は、10月以降の本格実施に向け、準備を整えているところである。
事業の社会的な役割、効果	申請時	達成状況
	本事業の社会的な役割は、全国の博物館・美術館等と福祉・医療機関との連携から、「2025年問題」「2042年問題」を抱える我が国の地域包括ケアシステム実現に向けた「博物館健康ステーション」の構築にある。「博物館健康ステーション」の構築は、「地域の通いの場」として、博物館が新たな価値創造の実現につながり、高齢者の社会保障費増大の歯止めはもちろん、児童生徒をはじめとした地域住民のメンタルヘルス支援への効果が期待できる。それは、博物館浴の定量的評価の確立から、「博物館と健康」という新たな医療ビジネス、さらに医療費削減という観点からの「文化芸術で稼ぐ」方策研究につながる効果も期待できる。	本事業の社会的な役割は、全国の博物館・美術館等と福祉・医療機関との連携から、「2025年問題」「2042年問題」を抱える我が国の地域包括ケアシステム実現に向けた「博物館健康ステーション」の構築にある。これまで実施している活動①では、福岡県、長崎県、沖縄県、宮崎県、佐賀県、大分県でリンクワーカー人材育成に努めた。また、活動③では、昨年度本事業に参加したリンクワーカー人材が北海道釧路市、愛知県名古屋市で自ら企画した、博物館健康ステーション/ミュージアムカフェ事業を開催した。
事業に関して学会発表、メディアでの掲載実績や予定	【学会発表等】20230521日本博物館協会「国際博物館の日」記念シンポジウム（国立科学博物館） 【メディア掲載実績】『博物館浴』記事掲載①230420カレントアウェアネスへ寄稿②230507中日新聞Web版③230509朝日新聞④230717北海道新聞⑤230716釧路市立美術館ホームページ⑥230720釧路新聞朝刊	
事業で得た課題や経験、今後の活用方法	本事業の各活動は、本格的には10月以降にその成果が見られるところであるが、これまでの活動から、確実にリンクワーカー人材の輪は全国に広がっている。こうしたリンクワーカー人材の輪が広がりから、「博物館」が「健康、ウェルビーイング」という新たな価値を創造し、「地域の通いの場」、「健康づくりの場」として位置づけられるようになることが期待できる。超高齢社会をひた走る我が国が抱える、「2025年問題」「2042年問題」解決に向けて、博物館の新たな価値創造が大いに活用できるよう、今後の活動（特にオンライン連続講座、国際シンポジウム開催に向けた準備）を充実させていきたい。	

担　当　者 所属・氏名	九州産業大学 地域共創学部 教授　緒方泉	電話	092-673-5484
		E-mail	sangaku@ml.kyusan-u.ac.jp

活動①

講座名 企画名	博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発講座（プログラム開発コース）
講師名 出演者名	【講　師】岩崎寛（千葉大学）、井上幸一（福岡女子短期大学）、市橋芳則（北名古屋市歴史民俗資料館） 他 【参加者】行政職員、医療・福祉従事者、博物館・図書館関係者、博物館学芸員・図書館司書有資格者（休眠学芸員・休眠司書）など□

日時	令和5年7月から令和5年11月	コマ数	9回／@6時間	
会場・教室	九州国立博物館、佐賀県立博物館・美術館他		計画	実績	差
		来場者	180	103	−77
		育成対象者	120	90	−30

育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	5		88		6	4	

実施概要	本事業は、10月以降も実施する計画であるため、中間報告時点では、実施及び準備状況を報告する。 第1回：回想法プログラムの作り方in福岡【開催日】7月28日(金)【講師】市橋芳則（北名古屋市歴史民俗資料館）【会場】九州国立博物館 第2回：回想法プログラムの作り方in宮崎【開催日】9月8日(金)【講師】市橋芳則（北名古屋市歴史民俗資料館）【会場】宮崎県総合博物館 第3回：美術館de園芸療法in大分【開催日】9月25日(月)【講師】岩崎寛（千葉大学）【会場】大分香りの博物館 第4回：美術館de園芸療法in鹿児島【開催日】10月27日(金)【講師】岩崎寛（千葉大学）【会場】鹿児島市立美術館 第5回：博物館・美術館deやさしい日本語in沖縄【開催日】9月5日(火)【講師】村田陽次（東京都生活文化スポーツ局）、髙尾戸美（多摩六都科学館）【会場】恩納村博物館 第6回：博物館・美術館deやさしい日本語in熊本【開催日】10月20日(金)【講師】村田陽次（東京都生活文化スポーツ局）、髙尾戸美（多摩六都科学館）【会場】熊本市現代美術館 第7回：博物館・資料館de音楽療法in長崎【開催日】8月9日(水)【講師】井上幸一（福岡女子短期大学）【会場】時津町歴史資料館 第8回：人にやさしい展示グラフィックの作り方in佐賀【開催日】9月18日(月・祝)【講師】井上広一（有限会社ORYEL）【会場】佐賀県立博物館・佐賀県立美術館 第9回：ハンズオンプログラムの作り方in山口【開催日】11月13日(月)【講師】広瀬浩二郎（国立民族学博物館）【会場】下関市立考古博物館

	申請時	達成状況
アートマネジメント人材育成目標	「健康寿命」を増進するには、健康と要介護状態の中間に位置する「フレイル」段階の高齢者に適切な介入が必要である。合わせて、児童生徒、成人など地域住民のメンタルヘルス支援も重要である。今回は、回想法、園芸療法、音楽療法、ハンズオンプログラム、多言語プログラムなど多彩な講座を用意することで、高齢者をはじめとした地域住民のニーズに応えられる人材を育成する効果がある。さらに、この講座を九州・沖縄・中国地域などの各県で開催することで、博物館を活用した「健康寿命」増進プログラムの企画立案者を広く育成する効果があるとともに、「博物館健康ステーション」運用に向けたネットワーク人材の育成への寄与も期待できる。	申請時、本活動の目標として、「健康寿命」を増進するには、健康と要介護状態の中間に位置する「フレイル」段階の高齢者に適切な介入が必要であると考えた。そのため、過去2年間で育成した人材が所属する博物館、美術館等の協力を得て、回想法、園芸療法、音楽療法、やさしい日本語など多彩な講座を用意した。さらに本活動をこれまでの九州・沖縄各県開催のみならず、育成人材が所属する山口県でも開催できた。今後も、10月後半、11月中旬には、熊本、鹿児島、山口での開催を予定している。「博物館健康ステーション」運用に向けたネットワーク人材の育成の輪をさらに広げていきたい。

活動で得た課題や経験、今後の活用予定	本活動の理念は、2042年問題を抱える我が国の高齢社会に対して、全国に5,700館以上ある地域博物館が、「健康、ウェルビーイング」をテーマに、新たな価値創造を生む機会とすることである。そのため、博物館を活用した「健康寿命」増進プログラムの企画立案者、そして地域とつながる人材を育成するための講座を用意している。これまでの2年間は、主に博物館関係者を対象としていたが、今年度は医療福祉従事者など、地域住民を支える方々の参加を得るようになった。今後は、その輪をさらに広げられるように、オンライン連続講座の広報宣伝をしていきたい。

活動②

講座名 企画名	博物館リンクワーカー人材養成講座（人材養成コース）オンライン講座							
講師名 出演者名	【講　師】藤　洋介（香椎丘リハビリテーション病院）、佐野　正晴（甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課）、田中　今子（中村キース・ヘリング美術館）、有馬泰治（千鳥橋病院）、三角　徳子（福岡市博物館）、小林　善也（下関市立考古博物館）、中込潤（九州産業大学美術館） 【参加者】行政職員、医療・福祉従事者、博物館・図書館関係者、博物館学芸員・図書館司書有資格者（休眠学芸員・休眠司書）、博物館・図書館に関心がある地域住民、在住外国人など							
日時	令和5年9月から令和5年12月				コマ数	6回／@3時間		
会場・教室	九州産業大学（オンライン実施）					計画	実績	差
					来場者			0
					育成対象者			0
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数							
実施概要	本事業は、11月以降に実施する計画であるため、中間報告時点では、検討及び準備状況を報告する。 博物館などが社会的処方の場となるための博物館リンクワーカー人材養成講座を、6回予定している。 第1回：博物館と医療・福祉機関の連携の進め方【開催日】11月10日(金)【講師】中込潤（九州産業大学美術館）、藤　洋介（香椎丘リハビリテーション病院） 第2回：「歴史文化財課 佐野さんの民具図鑑」の作り方【開催日】11月24日(金)【講師】佐野 正晴（甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課） 第3回：社会課題と向き合う美術館活動【開催日】12月1日(金)【講師】田中　今子（中村キース・ヘリング美術館） 第4回：地域で認知症高齢者を支える−基本知識と対応法【開催日】12月8日(金)【講師】有馬泰治（千鳥橋病院） 第5回：オンライン「院内学級」プログラム開発～これまでとこれから～【開催日】12月15日(金)【講師】三角　徳子（福岡市博物館） 第6回：考古資料を活かした触察学習の実践とその可能性【開催日】12月22日(金)【講師】小林　善也（下関市立考古博物館） ＊なお、本講座はオンラインで実施し、各回の講師の講演は録画編集し、教材としてYouTubeで配信する。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	この講座で博物館リンクワーカーを養成する意味は、「2042年問題」解決に向け、高齢者をはじめ、児童生徒などの地域住民を対象に、博物館のコレクションを活用したメンタルヘルス支援を推進することである。リンクワーカーは、地域住民を地域の様々な社会資源と繋げ、社会的な孤立を防止する役割を果たす人材である。今回は、オンラインを活用し、参加対象者を全国の「行政職員、医療・福祉従事者、博物館・図書館関係者、博物館学芸員・図書館司書有資格者（休眠学芸員・休眠司書）、博物館・図書館に関心がある地域住民、在住外国人など」と幅広く募集し、社会的処方の理念と実践を学ぶことで、「誰もが全国5,700以上ある博物館のリンクワーカー」という、新たな地域人材の育成が期待できる。□					本活動で育成を目指すリンクワーカーとは、地域住民を地域の様々な社会資源と繋げ、社会的な孤立を防止する役割を果たす人材である。今回はオンラインを活用し、これまでの2年間に受講生として参加した滋賀県、山梨県、福岡市の博物館関係者、医療福祉従事者を講師とすることができた。現在のところ、開催が11月以降開催のため、中間報告での達成状況の記載はないが、現在広報チラシを作成し、参加者募集をするため、九州、沖縄各県などの博物館等へ送付を行っている。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	11月以降の開催になるため、今回の中間報告での記載事項はない。							

活動③

講座名 企画名	博物館のリラックス効果に関する「心理測定・生理測定」実態調査							
講師名 出演者名	【実施者】「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成　事業実行委員会（略称：「2042年問題」事業実行委員会） 【対象者】九州・沖縄など各県で実施する「健康寿命」増進プログラム開発講座参加者							
日時	令和5年7月から令和5年11月（活動①と同時実施）□				コマ数	4回／@1時間□		
会場・教室	九州国立博物館、佐賀県立博物館・美術館他					計画	実績	差
					来場者	60	43	−17
					育成対象者	60	43	−17
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数							
実施概要	九州・沖縄各県で実施する「健康寿命」増進プログラム開発講座参加者を対象、心理測定（POMS2日本版）、生理測定（血圧、脈拍）を行い、プログラムのリラックス効果評価を定量的に分析判定する。こうしたエビデンスの蓄積をもとに、地域の博物館と医療・福祉機関をつなぐリンクワーカーと共に、高齢者のフレイル予防、健康寿命を伸ばすメンタルヘルス支援ための博物館浴プログラム研究開発に結びつけたい。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	2020年2月に来日した、英国、ロンドンにあるダリッチ絵画美術館（1811年設立の世界初の公立博物館）のジェーン・フィンドレー氏に、「博物館、医療、福祉機関の連携のためのポイント何か？」と尋ねると、「1つ目は、さまざまな異なる機関同士が会話する場を設けること。そして2つ目は、異なる機関同士が情報発信する中で、いかにして共通項を見いだせるか」と答えた。この「共通項」ということでは、「博物館のリラックス効果」を定量的に、客観的に測定する方法を開発することが重要である。これまで博物館や美術館に行くと、「なんか癒される」「とてもリラックスできる」など主観的な感想を聞くことがあっても、それを科学的に評価する方法がなかった。昨年度に続き、今回の心理測定、生理測定によるエビデンスの蓄積から、博物館が社会的処方の場として有効であるという証明につながると期待できる。また、この実態調査を通じて、科学的評価法を運用できる人材を育成することも期待できる。					本活動は、昨年度に続き、回想法、園芸療法などに参加する博物館関係者、医療福祉関係者を対象に、作品鑑賞前後の心理測定、生理測定を行った。当初は9ヶ所の研修会会場全てで行う予定であったが、測定場所（周りの音が聞こえることでのバイアスがかからない、静かな会場）確保の関係から、中間報告までに3ヶ所で実施、今後は10月27日（鹿児島市立美術館）を予定している。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	本活動は、博物館、美術館の展示室鑑賞前後の「心理測定・生理測定」にあたり、測定を行える場所（周りの音が聞こえることでのバイアスがかからない、静かな会場）の確保が難しかった。しかし、参加者は、「実際に測定に参加することで、科学的データの取り方が分かった。参加した自分の血圧や脈拍の数値が下がるのを見て、博物館が社会的処方の場として有効であるという、新たな価値を地域住民に伝えていく健康プログラム開発を考えていきたい」という声があった。今後は、測定データをまとめ、開催会場に提示することで、「博物館健康ステーション」構築に向けた活動につなげていきたい。							

活動④

講座名 企画名	博物館健康ステーション/ミュージアムカフェ事業							
講師名 出演者名	【実施者】「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成　事業実行委員会（略称：「2042年問題」事業実行委員会） 【対象者】地域住民							
日時	令和5年6月から令和6年1月（予定）				コマ数	5回／@4時間		
会場・教室	沖縄市立郷土博物館、釧路市立美術館 他					計画	実績	差
					来場者	45	40	−5
					育成対象者	45	40	−5
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数							
実施概要	本事業は、10月以降も実施する計画であるもため、中間報告時点では、実施及び準備状況を報告する。 九州産業大学教員と全国の博物館リンクワーカー人材養成講座修了生が地域住民を対象とした博物館健康ステーション/ミュージアムカフェを企画立案・実施運営し、博物館資料を活用した新たな博物館浴プログラムを開発する。 なお、会場は昨年度博物館マネジメント人材育成研修会修了生等が所属する全国の博物館・美術館等を予定している。 また、「博物館健康ステーション/ミュージアムカフェ事業」開催に当たっては、地域住民を15名募集し、九州産業大学教員からの講話を基に、地域住民の交流の場＝つながりの場を設ける。合わせて、作品鑑賞前後の心理・血圧測定からリラックス効果を定量的に測定すると共に、ミュージアムカフェの効果を科学的に評価する方法を実証する機会とする。 第1回：【開催日】5月6日（土）【会場】名古屋大学博物館 第2回：【開催日】7月16日（日）【会場】北海道立釧路芸術館 第3回：【開催日】7月17日（月）【会場】釧路市立美術館 第4回：日程調整中 第5回：日程調整中 第6回：【開催日】1月14日（月）【会場】沖縄市立郷土博物館							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	全国の博物館リンクワーカー養成講座修了生が地域住民を対象とした、博物館健康ステーション/ミュージアムカフェを企画立案実施運営することで、学習成果を活かした活動が可能になる。また、ミュージアムカフェ参加の地域住民も、博物館を自分たちの居場所とすることができ、さらに今後のリンクワーカーとしての社会参加の場を獲得することから、「博物館健康ステーション」の具現化につながることも期待できる。					本活動は、昨年度開催した博物館リンクワーカー人材養成講座の修了生が、それぞれの地域で博物館健康ステーション/ミュージアムカフェを開設し、博物館浴プログラムを実施運営するものである。これまでのところ、東海地方で名古屋大学博物館、北海道地方で北海道立釧路芸術館、釧路市立美術館の3会場で開催した。今後は、沖縄地方などでの開催を調整している。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	本活動では、昨年度の博物館リンクワーカー人材養成講座の修了生が、それぞれの地域で博物館健康ステーション/ミュージアムカフェを開設している。まさに、リンクワーカーの輪が全国に広がる可能性を感じる活動である。今後は、沖縄地方での調整を進め、北海道から沖縄まで、全国でのミュージアムカフェ活用展開に努める計画である。							

活動⑤

講座名 企画名	海外博物館、美術館などにおける社会的処方、「健康寿命」増進プログラム及びリンクワーカーの実態調査							
講師名 出演者名	【調査者】松村利規（福岡市博物館）、事務局員　他							
日時	令和5年10月初旬、10月下旬				コマ数	2回/6泊8日		
会場・教室	海外の博物館、医療施設、大学など					計画	実績	差
					来場者	4	3	−1
					育成対象者	4	3	−1
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数							
実施概要	本事業は、9月下旬から実施する計画であるため、中間報告時点では、検討及び準備状況を報告する。 英国・ロンドン大学キングス・カレッジの報告書で、「高齢者の持続可能性を確保するためには、英国の各地域における創造的な高齢化のための専門政策が極めて重要になる」と指摘したことを受け、ロンドン市は2020年から博物館などを活用した社会的処方プログラム開発を始めた。また、米国・アーツ・アンド・マインドは、コロンビア大学医学部付属病院認知症・高齢診療科と連携し、紹介を受けた認知症患者とその介護者に、博物館の様々な芸術文化プログラムを提供している。このように英国・米国では、博物館が社会的処方の場として機能する事例が多く報告されている。 そのため、米国・英国の博物館、医療施設、大学などとの交流を促進し、社会的処方の先進プログラム事例や科学的なプログラム効果評価測定法を調査し、「2042年問題」解決に向けた「健康寿命」増進プログラム開発やリンクワーカー人材養成に資するようにする。さらに、この交流事業を通じて、日本で開催する国際シンポジウム招聘者を探索する機会とする。 ①米国の高齢者向け「社会的処方」先進事例調査（メトロポリタン美術館、ニューヨーク市立博物館、コロンビア大学医学部附属病院など） ②英国の高齢者向け「社会的処方」先進事例調査（ダリッチ絵画美術館、サウスロンドン・アンド・モーズリー・リカバリーカレッジ、ロンドン大学、リバプール博物館など）＊なお、本調査は基本的に対面で行うが、新型コロナウィルス感染の状況により、オンラインでも実施できるように準備を整える。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	「2042年問題」解決に向けた「健康寿命」増進プログラム開発やリンクワーカー人材養成にあたり、すでに、博物館などを活用した社会的処方を国家プロジェクトとして見出そうとしている英国・米国の博物館、医療機関、大学との交流事業は有意義なものである。また、本学では、博物館を活用した社会的処方による効果を、生理測定・心理測定を用いて、科学的に、客観的に評価する方法を確立しようとしているため、英国・米国の関係者とぜひ意見交換をし、共同研究へと発展させたい。さらに、この海外調査に参加するメンバーは、本事業が推進する社会的処方の場としての博物館づくりを推進していく中核的役割を果たすことが期待される。					ここ数年のコロナ禍で実施できなかった海外調査だが、今年度は実施が可能になった。10月以降、米国、英国での調査を実施し、海外で進む「博物館健康ステーション」の取り組みの実態を把握する機会とする予定である。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	本活動では、コロナ禍で実施できなかった海外調査について、米国・ニューヨーク、英国・ロンドンを中心に調査を行う予定である。事前に英国、米国の博物館関係者とメール交換する中で、博物館・美術館のコレクションを活用した、中1ギャップ支援プログラムや認知症高齢者の家族を支えるプログラムなどを知る機会を得ている。今後の現地調査で、その実態を把握し、来年1月に予定する国際シンポジウムの登壇者の選定に活用していきたい。							

活動⑥

講座名 企画名	海外の博物館関係者、リンクワーカーを招聘したオンライン国際シンポジウムの実施							
講師名 出演者名	【講師】海外の博物館関係者・リンクワーカー　他 【参加者】行政職員、医療・福祉従事者、博物館・図書館関係者、講座修了生、在住外国人など							
日時	令和6年1月□				コマ数	1回/@5時間□		
会場・教室	九州産業大学□					計画	実績	差
					来場者			0
					育成対象者			0
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数							
実施概要	本事業は、1月に実施する計画であるため、中間報告時点では、検討及び準備状況を報告する。 国際シンポジウムでは、博物館を活用した社会的処方を実施する海外の博物館関係者、リンクワーカーを招聘した先進事例報告、そして海外調査に派遣したメンバーによる視察報告、多言語学習映像教材の紹介を行う。 その後、我が国の「2042年問題」解決に当たって、博物館が果たす社会的な役割について、行政職員、医療従事者、博物館・図書館関係者、講座修了生、在住外国人などを交えて意見交換する。 〇令和6年1月27日（土）（詳細内容検討中）：海外博物館関係者等を招聘したオンライン国際シンポジウム 【会場】九州産業大学　【登壇者】海外の博物館関係者・リンクワーカー、海外調査参加者　他 ＊なお、国際シンポジウムはオンライン配信で実施する。また、シンポジウムは録画編集し、教材としてYouTubeで配信する。							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	国際シンポジウムに参加する行政職員、医療・福祉従事者、博物館・図書館関係者、講座修了生、在住外国人などは、博物館などを活用した社会的処方を進める海外事例を博物館関係者・リンクワーカーや海外調査参加者から直接聞く機会を得るとともに、新たな「健康寿命」増進プログラム開発、そのプログラムの科学的な評価方法、人材養成方法を検討する機会も合わせて得られると期待できる。さらに、こうした国際シンポジウムを通じて、次年度以降の地域博物館を活用した「博物館健康ステーション」の円滑な運用方策を提案できると考える。□					本活動は、来年1月末の開催に向け、開催要項の作成を行っている。今回のテーマは、「社会課題に向き合う博物館」とした。そして、このテーマにふさわしい活動をする博物館・美術館について、インターネットでの情報収集に努め、実際に10月からの海外調査で、人材を選定する予定である。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	来年1月末の開催になるため、今回の中間報告での記載事項はない。							

活動⑦

講座名 企画名	多言語学習映像資料の制作							
講師名 出演者名	【実施者】「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成　事業実行委員会（略称：「2042年問題」事業実行委員会） 【対象者】海外の博物館・美術館関係者、在住外国人、博物館・図書館関係者、博物館学芸員・図書館司書有資格者（休眠学芸員・休眠司書）、博物館・図書館に関心がある地域住民など							
日時	令和5年6月から令和6年1月				コマ数	2回／@1時間□		
会場・教室	博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発講座・博物館リンクワーカー人材養成講座・国際シンポジウム開催会場 他					計画	実績	差
					来場者			0
					育成対象者			0
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数							
実施概要	本事業は令和6年1月に成果物が完成する計画であるため、中間報告時点では、検討及び準備状況を報告する。 博物館が有する「守る技術（保存・修復）」「調べる技術（調査研究）」「見せる技術（展示）」「伝える技術（教育普及）」（以下、4つの技術）を学ぶために、これまで「仏像」「茶器」「掛軸」「着物」「刀剣」「甲冑」「額装作品」などの取り扱いを紹介する博物館学習映像教材「学芸道」を制作し、シリーズ化してきた（26項目36本）。これらは、現職学芸員、学芸員を目指す学生、そして「博物館が大好きな」地域住民の学習教材となっている。今回、これらと合わせ、博物館浴プログラムの実施マニュアルを多言語化することで、「いつでも、どこでも」受講可能なオンライン学習映像教材が、海外博物館、美術館などへ広く紹介できることになる。また、外国人住民、訪日外国人にとっても、博物館の4つの技術を知る、日本文化を知る、そして博物館浴によるメンタルヘルス支援の実際を知る教材となる。□							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	博物館が有する「守る技術（保存・修復）」「調べる技術（調査研究）」「見せる技術（展示）」「伝える技術（教育普及）」（以下、4つの技術）を知る多言語学習映像教材および博物館浴プログラムの実施マニュアル教材の開発は、海外の博物館・美術館関係者、そして国内の行政職員、医療・福祉従事者、博物館・図書館関係者など現場学芸員・司書、休眠学芸員・司書、さらに在住外国人や訪日外国人にとっても有効なものになると期待できる。 ・海外の博物館・美術館関係者・・・博物館が有する4つの技術と博物館浴プログラムの紹介 ・在住外国人、訪日外国人への効果・・・博物館への来館促進（日本文化や博物館バックヤードの紹介） ・博物館・図書館関係者への効果・・・4つの技術の継承と博物館浴プログラムの企画立案・実施運営の学習支援 ・休眠学芸員・司書への効果・・・現場感覚を磨き続けるための反転学習 ・「健康寿命」増進プログラム参加の高齢者への効果・・・博物館での居場所づくり（現場関係者や子どもとの交流）					本活動は、博物館が有する「守る技術（保存・修復）」「調べる技術（調査研究）」「見せる技術（展示）」「伝える技術（教育普及）」（以下、4つの技術）を学ぶために、これまでに制作した、「仏像」「茶器」「掛軸」「着物」「刀剣」「甲冑」「額装作品」などの取り扱いを紹介する博物館学習映像教材「学芸道」（26項目36本）を継続発展させるため、今年度は屏風の取り扱い方」をテーマに制作を進めた。実行委員会のメンバーである、福岡市博物館の協力を得て、8月18日（金）に撮影を行った。現在、編集作業を進め、10月末までには日本語版を完成させる予定である。その後は英語版を作成する予定である。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	本活動で制作する多言語学習映像資料は、海外の博物館・美術館関係者、そして国内の行政職員、医療・福祉従事者、博物館・図書館関係者など現場学芸員・司書、休眠学芸員・司書、さらに在住外国人や訪日外国人にとっても有効なものになると期待できる。特に今回作成を予定している「屏風」は、そこに描かれる題材から日本文化を知る学習材料にもなり得る。こうした学習教材を多言語化していくことで、インバウンドの博物館利用促進につないでいくことが期待できる。今後は、未だ制作がない分野の考古資料、自然史資料などにも幅を広げていきたい。							

活動⑧

講座名 企画名	「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業に関する報告映像の制作							
講師名 出演者名	【実施者】「2042年問題」事業実行委員会 【対　象】日本博物館協会加盟館							
日時	令和5年12月から令和6年1月				コマ数	1回／下記内容一式		
会場・教室	「2042年問題」事業実行委員会事務局					計画	実績	差
					来場者			0
					育成対象者			0
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数							
実施概要	本事業は令和6年1月に成果物が完成する計画であるため、中間報告時点では、検討及び準備状況を報告する。 「2025年問題」解決に向けた「博物館と医療・福祉のよりよい関係づくり」構築のために、令和5年度実施分を含め、3ヶ年の実績を映像資料にまとめる。 その内容は、以下のように構成する。 ①博物館を活用した「健康寿命」増進プログラム開発講座（博物館などの社会資源を活用した、回想法、園芸療法などの「健康寿命」プログラムの体験、そして企画立案・実施運営の方法を学ぶ講座） ②博物館リンクワーカー人材養成講座（博物館などが社会的処方の場となるための理論と実践を学ぶ講座） ③博物館のリラックス効果に関する実態調査（リンクワーカーがつないだプログラム参加者への生理測定、心理測定による効果評価の調査） ④博物館健康ステーションの拡充（地域住民を対象に、リンクワーカーが企画立案する博物館浴プログラムを提供する、ミュージアムカフェを開催し、前年度以上に地域博物館における居場所づくりを進める） ⑤海外博物館、美術館などにおける「健康寿命」増進プログラム及びリンクワーカーの実態調査（海外の先進事例を調査し、今後の方策を検討する） ⑥海外の博物館関係者、リンクワーカーを招聘したオンライン国際シンポジウムの実施（海外事例の紹介、及び関係者の交流の場とする） ⑦3ヶ年の総括							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	「2025年問題」解決に向けた「博物館と医療・福祉のよりよい関係づくり」構築に向けた高齢者を含む地域住民への対応策について、米国・英国などの博物館調査の成果と比較検証しながら、日本の博物館の社会的役割を明確にする。これにより、博物館と医療・福祉機関が連携する、科学的な根拠に基づく新たなマネジメント方策を提案することが期待できる。					本活動は、令和5年度に実施した全ての活動を総括する映像資料となる。現在それぞれの活動は進行中であるため、事前アンケートや実施報告、事後アンケート、活動写真などの整理を行っている。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	全ての活動が終了する、1月以降の制作になるため、今回の中間報告での記載事項はない。							

活動⑨

<table>
<tr><td>講座名
企画名</td><td colspan="8">実行委員会の開催（3部会を設ける。①調査研究部会、②プログラム開発・評価検討部会、③教材開発部会）</td></tr>
<tr><td>講師名
出演者名</td><td colspan="8">【実施者】「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成　事業実行委員会（略称：「2042年問題」事業実行委員会）</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="3">令和5年5月～令和6年1月</td><td>コマ数</td><td colspan="4">4回／@1時間</td></tr>
<tr><td rowspan="3">会場・教室</td><td colspan="3" rowspan="3">「2042年問題」事業実行委員会事務局</td><td></td><td>計画</td><td>実績</td><td colspan="2">差</td></tr>
<tr><td>来場者</td><td></td><td></td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td>育成対象者</td><td></td><td></td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">育成対象者属性</td><td>属性</td><td>学生</td><td>実演家</td><td>文化施設職員</td><td>公共機関職員</td><td>民間団体職員</td><td>民間企業社員</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>人数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>実施概要</td><td colspan="8">「2042年問題」事業実行委員会は以下のような日程を予定している。中間報告時点では、実施及び準備状況を報告する。
第1回（令和5年5月）：事業計画の確認、3部会の役割確認、講座内容の確認など
第2回（令和5年10月）：生理測定・心理測定に関するデータ報告、分析に関する意見交換、海外調査事業の確認、中間報告の検討など
第3回（令和5年12月）：海外調査事業報告、国際シンポジウム事業の検討など
第4回（令和6年1月）：令和5年度の事業報告、課題と成果の確認など
＊なお、実行委員会は基本的に対面で行うが、新型コロナウィルス感染の状況により、オンライン会議でも実施できるように準備を整える。□</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アートマネジメント人材育成目標</td><td colspan="4">申請時</td><td colspan="4">達成状況</td></tr>
<tr><td colspan="4">実行委員会のメンバーは福岡市博物館、福岡市美術館、海の中道海洋生態科学館、直方谷尾美術館、九州大学総合研究博物館などの博物館関係者、行政職員を中心に構成している。年代は30才代～50才代で、実行委員会業務を通じて、「2042年問題」解決に向けた行政の対応、そして我が国、さらに海外の博物館の実態を知ることで、今後の九州・沖縄地域の「健康寿命」増進に向けた博物館健康ステーションづくり、リンクワーカー人材育成に関する中核的存在に成長することが期待できる。</td><td colspan="4">本事業の実行委員会は、福岡市博物館、福岡市美術館、海の中道海洋生態科学館、直方谷尾美術館、九州大学総合研究博物館など、政令指定都市、地方都市、大学の博物館関係者、行政職員を中心に構成することで、「2042年問題」解決に向けた行政の対応、そして我が国、さらに海外の博物館の実態を調査研究することを目的としている。それぞれの活動は、途上であるために中間報告で具体的な達成状況を記載できないが、各実行委員はそれぞれの活動に実際に参加して、九州、沖縄各県などの実態の把握に努めている。</td></tr>
<tr><td>活動で得た課題や経験、今後の活用予定</td><td colspan="8">本活動を担う実行委員会のメンバーは、30才代～50才代で、実行委員会業務を通じて、「2042年問題」解決に向けた行政の対応、そして我が国、さらに海外の博物館の実態を知る機会を得ている。さらに、九州・沖縄などで開催する研修会の視察を通じて、各地域の博物館関係者、医療福祉関係者との交流を深めている。こうした成果を踏まえ、今後は全国のリンクワーカー人材育成の先導者となることを期待したい。</td></tr>
</table>